255130
昭和27年1月9日

1374

尾崎男爵の
三條家文書

1

武

[illegible]

合衆國書翰和解

[illegible]

亞美理駕大合衆國大統領姓
斐謨名ハ美辣達ス。

日本國

大君主殿下平安大尊大敬良友
乎。今ニ特ニ派ソ本國師舩大臣
水師提督彼理管領一帮兵
舩ヲ帶テ公書ヲ到リ
貴國境。專ラ呈ス

殿下御覧矣茲面諭諫水師提
督轉告朕心久欲与
貴國通和之真意請
殿下敬思今要我兩國藉典
和友之結好兼立通高之章
程今令欽差彼理来
貴國為辨此二事故達
君主殿前吾合衆國規矩定例

嚴禁各官挿管別國之政礼故
此明諭諫欽差在
貴地之時不可労動貴處人民
今合衆國廣大東西邊疆各極
於海在西界正對向日本國若
坐火輪舩離加理科吩省或由
呵理于郡駛過平海十八晝夜
能到

貴國之口岸也。合衆國之一省。
名叫加理科吩亞是大邦土
産多。毎年出黄金僅四千萬
兩之多。同白銀水銀寶玉等
物。日本亦然富澤多産寶物
人明曉多藝。故此兩鄰國互相
往来必得大益朕亦為此要開
商意矣茲知悉日本國之古例

只准中國呵囒國船能通商。
除此二國之外不准別船進
埠。祇因世間之情万國之政
漸多有改變古例易新旦
貴國初立古例之時。亞美理駕
即名新地毬由歐羅巴人離本
處入住此山墾地耕種。在彼
長久。人民為廿旦貧迨今民

生繁華。貿易年々盛布各
處量
殿下盡悉。倘能改古例以准我
兩國人賣買則各伴得大益
矣。如若
君主只准古例禁止別國船入
埠。是照依國法不妨先試數
年。或五年十年之間。能知有

利否或因賣買無益。然後仍
復古例可也夫本國与別國
立約亦定數年之尾。若因兩
國不願再不照新約旦我兩
國各試暫開港口嗣後可知何
様也又諭詼欽差告陳
殿前每年本國船雖加理科吩亞
駛往中國者甚衆抑有獵鯨魚

船多有常近
貴境此等各船或遭颶風撃
碎在海邊雖船身破人貨兩全
朕慮此等之鄙命者因思
貴國官民見此等人船量必安撫
恩待仁慈而人物皆保留俟有
本國船到即帶歸也且憐本國
之民亦是五倫之内豈

君主不知乎若不反此論則不快人
心矣且聞
貴國多産煤炭食物繁盛故諭
飾詠鈔差面告本國火輪船
渡平海去中國者計燒煤炭
數万石其船不能多裝在途
不敷足用無從接濟而回本
國又不使所以各船要入

貴國港口買煤炭食物接濟并
取水之便如買物或將銀錢
或以各貨兌之可也請
君主議指南境一港口能使本国
各船暫泊而得買此須物兼折
食水此事務希速即
允准免朕遠望而快心也今諭諒
欽差彼理坐領一帮兵船越

貴國来江戸名京代為拜見述朕
敬思我兩國設友意開貿易俾
本國船能我須食煤等物兼保
憐苦楚人民除此等事務之外
諒欽差別無他意再船内裝有
數件本國巧藝布帛進呈
君主收納弗覽卑物知朕思友
真敬之記願全能真神保

君主受萬福感聖顧哉

知此公書是實者本國大玉

璽及書名畫押為證

要義理駕大合衆國京在華盛

頓西國記年之一千八百五十二年

十二月十三日即壬子年十月初

六日封

御硃筆

大學士依奬列恭奉勅書

國璽

亜美狸駕大合衆國大統領投桐
勤ハ性ヲ雙謨右ハ美諫ヲ申者ハ
通ヲハ　日本國　大君主殿下
には平安に京都御座是ヲ至極
為ニ心ヘ一敬ニ〈きゝ良友ヲ申
にや今取別段本國の兵船大臣
海軍総将彼狸なる者ヲ呈出紀の兵
船ヲ引統〈國書ヲ携〈

貴國の以境を未鉞改て　殿下の
考慮へ相伺へ以扨右海軍惣得へ對
面にて申付いは我なる心中に荒さう
貴國と通好致度実情と取次申遣り
殿下の疎略に意をと願ふ今度我女
國ゆゑ親友懇交を取結始め度に依り
是は通商の箇條を相定め度存し
此度欽差役彼程へ申付

貴國へ君臣右二ヶ條の後取捌ん在め
君主殿若へ以通申いむ者合衆國親規
定の仕来には誠役人員の政礼拵
差鉞引給い後嚴く禁制に付此度
明白に此欽差役の者へ申付
貴地を萬の節は貴處人民なる
勞役擾動致す安との事なり扨
當時合衆國の廣大なる事は其

東西の邊境は皆海洋まで相違し
其内西界は日本國に相對し居し
大輪船に乗り加理科 味亜省と
中地方と急離し人は呵咲于郡
と中地方よりして大平海を駛て越
らべき畫夜十八日にして 貴國
の港に到着致せり合衆國の
一省名を加咲科味亜と中は大國なり

産物に多し毎年黄金を出せ事
四千万両程の多きにて白銀水銀
鑛玉等 該物も同様に多く出産に
日本に 亦同様に富み熊へ澤山
に寶物を出産に其人物は総明利
發にて慶々能多くは也 北部接の西地
相互に往来は常に其に大利益極
ん事 鎮ひなし 我等国に北沢に月

て交易を開んと存ずるなり実に兼々
相公の御はは　日本國古来の掟に
は只々唐ち阿蘭陀国の船は通商
差免されは諸国の外は一切別国の
船港に入り出来は許されは既々
世間の情態万国の政事も追々古
例と改革致し新法に取扱へは
後も多く見当りは有り甚々

貴國かく最初古例に取定し故に
時分は亜英理駕ハいまに新地球と
名けは位のるのにくはひきに歐羅巴国の
人民本地と至難に新地の山に入り
住居して其地の所を耕作植付する
致し彼地在住良久しかりしハ其
時分は人民もおく已は気質のひきに
其今は無異し交易の後も年を遂て

感に誠事へ行われは此等の後
殿下にも委細世業知らぬは事となれば
若し古来の仕来を改められ我国の
者若し貪買を御免となれば双方を夫
利益を得事なるん若し史とも
若主にハ只々古例に従ひ異国船を
謂ふ入津を免されたとなれば足は此
國法に照り合ふを数年ためし此

取行ひ之又は六年十年の間に
及ぶも差支候を有まし扱篤と利益
の有無可申知らず或は賣買も一向に
益とら思ひ又は古例よりハ庶ひて
も宜しかるん欲え朱本国の外国と約
定相立の事は数年を経ひ来若や
為不とも志願ふ様ここは又て形約と
取用ひ事にされて我国共に暫

时港口と開らき或ひて勿後め行
の模様に成行いも知れ申へし扨又此
欽差役の者へ申付ひて　殿前に申
上ひ本國の和加理科　咈亞を出帆
唐土へ発誠ひ者　様て多く有又鯨獵
の和も成ぞ　貴國の邊境に近つきひ
者も有し此等の諸和は若し颶風に
出合撃ち　碎かき海邊に漂ひし

節和もおもれしも乗組の者と積
荷は別條なき時我々に於て此等
賤民の性命と無念致申し依て
考へたに　貴國の皮史民人なと此等
の人と和とと見逃ひて積能安堵撫恤
とかへ恩待して仁慈を施し人も
物も皆保護を蒙りけ為金相成本國
和の輩者と待遇連れ帰り

相談成事也 且つ本國の民とても
同し人類の事なれは無情 下ら
下は 君主にも以存なき事の
あるへきや若し此議論まて推恵せ
されは心に快然たらさるなり 其上聞及
ひ事は 貴國にはなく石炭と出
産し食物も澤山なるも支故此欲差
役の者へ志ことに付 以直に云上談させ

いは本國火輪船太平海を渡り 唐
ちへ往ものは其石炭を燒り事 數万
石に及ひ也 保其船中には多く積
載せかたく 途中にて所用に足る事
らへも支を次立ひ又立ひ保本國近
立處ゆり事は殊に不都合にて 以ち
支故此諸船に於ては 貴國の港
に入津して石炭食料を買求て

所用と次立又ち水を活取い都合の
宜敷を求んとしてあり其諸物を買ひ
ては或は銀錢にて償ひ或ハ諸品をして
取換えも宜くは願くは
君主の議定の上南境の港口と一ヶ處
ら定む本國の諸船に暫時の内船数
り錢し此諸調度を買取り且は
食料泉水を取換へ給ひ此儀

ち平成よ急速に許を得て我なら
遠望を免めて快心をひせしめよ今
度此欽差役の者彼理尓中付一組の
兵船を引連れ貴國へお納ひ戸
ち中名京へ住き我なに代りて拜謁
し我なら大切に思ふは我國にて明
友の情を設け貿易の道を開き本國
船をして食料石炭等を買取且は

艱難の人民を保護憐愍しめへと
希ふ以上の諸事を除きて外は此
欽差役の者別に替りたる志意は無
しい又和中には本國産の巧藝なる
布帛數許を積誠しい是を
君上へ進呈致しいは覚に足らぬ粗
品なれとも收納ら下我なるか友を思ふ
其實恭敬の驗とは兼ねらしなる偏

に希ふは　令能具備の志神
君主を保護して萬福を受させ重
顧を感しめへば
紀中此國書は是正志の品に
て本國の大臣靈と名おと花押
と見かひて證據とはされよ
西美理駕大合衆國の都市華盛
頓と云ふ地にあり西洋の記年一千

八百五十二年十一月十三日にて即ち
壬子の年十月初六日に対す

亜美理駕大合衆國欽差大臣兼管本國
師船天竺中國日本等海水師提督
大臣彼理為申陳事。切本欽差現奉
本國大統領欽差全權便宜行事坐
領一帮師船来
日本國境呈求
大皇帝殿下請議両國和睦之條約奉
上
吾君主公書并本欽差勅書此

二書現已鈔寫英字呵蘭字漢
字等書録呈
御覧惟此二書之正稿理合固封候呂
見之日面呈
大皇帝備閲並特奉面諭轉告
吾君主覺恩於
階下慰和之意故因
吾君主久聞合衆之民自心要投
貴地或被狂風漂至海邊該民等被貴
處官民見之如仇敵故
吾君主心甚憂慮今指數年前有
三船名呼嗎唎噓嚇嘟咖嚇嗹吐等人
船漂到海邊皆受許多委曲等由
本欽差奉諭面陳
殿下並請
俞允定約嗣後遇有合衆國人船

漂至海邊或被狂風吹進港口不得
以飢歉待之旦有
貴國之船或遇風壞抑漂流本國口
岸者常多資助回籍況西國於本
國官民都知人倫爺穌之道皆
可保船壞人亡者此等之事亦
求鑑察旦本國与歐羅巴各國無
結連盟而本國律例各官不管本

民之教何況能乱別國之政乎先三百
餘年歐羅巴初到
貴地之時入住本山墾土迨今立大邦
在日本歐羅巴之中東西連海歐羅
巴人早住在東如今民生滿地流沼
至西邊正對日本如坐火輪船渡平
海十八日或二十日能抵
貴境現在天下貿易年々繁盛而

貴國海口。船亦甚多。倘若
貴官民不把合衆之民當仇敵者。
吾君主要与
大皇帝兩國立和約況貴國初設律
例禁洋船進港口之時。是知改明戒。
今我兩國鄰近預先往来甚易現今
時世不同不能依知改照古例之成本
欽差恩念

陛下亦覽知現在之大概情形順此誠宜
立之和約則兩國免起鮮端故先堅領
四小船来迫
貴京而達知其和意本國尚有數号
大師船特命駛来未到日。時
陛下允準如若不和来年大帮兵船必
要駛来現望

大皇帝議定各條約之後別無緊要
事務大師船亦不來旦有
吾君主和理之公書候指定何日面
呈
御覽明鑑
大皇帝九五至尊福壽無疆須至陳告者
癸巳年六月初二日

要美理駕大合衆國鄭若大臣
兼管本國師船天竺唐吉日
本等海水師提督大臣彼理
大切の事を申述ふ事ゆゑ本鄭長
のうへ本國大統領鄭若の事を
受領年幹鄭一組の軍船
を率ひ日本國の境へ渡來致見
大皇帝殿下へ書籍を送る事

此和睦條約之書ハ上ニ述候通合衆國
主之書翰并本帥より差出候書翰
共二書ハ別ニ寫英國字
和蘭陀字漢文ニ而相認差上候
右二書之本書ハ封印ニ而
大合衆國帝ニ而同通の之と存候
合衆國帝ニ而回貴國王之旅中
貴國王ニ而

隣ニ而是非急ニ恩を施候様
故ハ貴國王萬一ニ而人民及難義候ハ
貴國之人民自ら恩ニ付
貴國陸地若若共式ハ大風之節
漂流候ハ　貴國之海岸ニ
若候ハ人民共　貴國之役人
百姓共殺人民と　仇敵之如く取扱
此段以て　貴國王甚不取扱

只今より数年前船之艘名は
嗎唎嚩嚩喇嚩嚩吽嚩吽嚩吽
人船　貴國海邊漂着の者
彼是取扱の委細を承る事
本鎖岩役事命を受け
殿下へ述ぶ許容を乾ひ和約
以来和の上は吾國人船
貴國海邊漂流致し或は

暴風に吹流され湊に着いても
仇敵のなく取扱ひ在て接受
貴國の人民吾國へ漂流致て船
中へ夫の思助力致し
貴國へ返しまつる西國歐
羅巴の國にては吾國の官民を
取扱は総て人倫義藴の道を
仰ぎ敬船の懷き人の所にては不敬

[illegible]
是[illegible]
盟約の國[illegible]
法度[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
百餘年[illegible]

貴國に渡来の[illegible]
[illegible]
小西[illegible]
東西海[illegible]
東方に[illegible]
[illegible]
[illegible]
海を[illegible]

貴國の法令は海内一統
交易の通商は
貴國のみ
ならず
貴國の役人
民と紛敵の
國
和
貴國

此考察之如此其理不從ひ其実に
和約を取極は以て高麗を踏に引
紀し事無くと雖も絶て西陵の小船を
率ひ此府門近海に渡來致し和約
の趣意の通達を申は本國外に
數艘の大軍船有しは早速渡來
下致は右兵船無之候に
陛下の評定を以て御使はもし

和約を渡し此義知無之候て朱年
大軍船を取揚ひ早速渡來下致は
右に付只今
大皇帝の御評議
右兵船申は此義知ありけり右等條約
取極は後は外に大切の用事無之
大軍船渡來に致は是吾國主
和約規定の書籍持來致は先は
歳日と此指留を受け四月通の事

御直に入御覽事は賴人は
大皇帝貴重の御書體御蒙
御限り無御拜領無之等皆御府
門に到り上申述
癸丑年六月初二日

亜美理駕大合衆國大統領姓
斐謨名美辣達
日本國
大君主殿下平安今朕一心全賴本
國師船水師提督彼理是見識
端正才能之臣故特派勅賜之欽
差全權代
大合衆國來

貴境而同
大君主所派全權之一二臣等齊議定
意鈐印兩国和睦通商駛船進港日
旦有條約章程及各緊要事務
均屬該全權等彼此辯理嗣後該
欽差彼理判奏候奉朕与公會
大臣議定允肯此准
亜美理駕大合衆國京在華盛
頓兩國記年之一千八百五十二年
十一月十三日是之國立政之七十七年
即壬子年十月初六日書名畫
押 鈐印為證

御硃筆

大學士依斐烈奏予勅書

國璽

西義理駕大合衆國大統領姓
斐謨名義謨即述に日本西
大夫を殿下法以平安以成功能に
俄と存に共、後我等四事の事
水師指督御理ハ即有要ニ
若俄ハ見議禮正にて才能有
之に事来ニ付共度別紙ニ鑿
得即付語本取扱ニ付大合

衆國地名代として
貴國に差出ける
大夫をよう御名出ニ如に御用
拭ニ御事来と相談致し西
國の和睦西云高を固く取扱
メに為に船を池て港口ハ着
筆力以に上大等の條約従
定其大切用勾の俄は望れ

[illegible]
[illegible]
得と[illegible]
[illegible]
[illegible]

亜墨利加合衆国郡[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十一月十三日回にては浜と云ふ
[illegible]
十月二日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大[illegible]

亞美駕大合衆國欽差大臣
兼管本國師船現留
泊日本海水師提督彼
理為申陳事奉本國
大統領欽命全權便宜
行事議和立約要同
貴國欽命一大臣高議
定於何日何時來京面見

大皇帝將ニ
本國主公書及勅書之正
稿二件ヲ謹テ呈ス御覽ニ候ス飭メ
一大臣ヲ早ク定メ日期ヲ可キ以中ン互ニ相ヒ
議明上ス肅ミ此ニ
敬テ候ス
崇安ヲ
癸丑年六月初七日

亜美理駕大合衆國欽差大臣
兼管本國帥部現留泊日本海
水師提督彼理主國の君の為め
に一事と申述ハ今度本國大君の
ハ御付をさらけ予に見計ひ携
相ニ候ひ祖能其事を取扱ひ仲
達なき相ニ熟談ニ而後の規
定を原立必ひ日本の大臣ニ曰ー

く熟談致し此後何日何月以
来昨へ来り大皇帝に以目見
致し亜美理加る主公の書状并
勅書の稿紙為通を相来り僅々
日本国之の以覚に望し大臣に
御申付早く日限を示極め互に評議
明日に寸へし敬々実より結束を結ぶ
癸丑年六月初七日

敬啓者。今送来公書一封
内。許多重大緊要之事。
乃連及
貴國故。要謹慎商量而
定希
貴國大臣等。諒必議擬長
久各條本欽差甘心俟
来年春季帯各船来

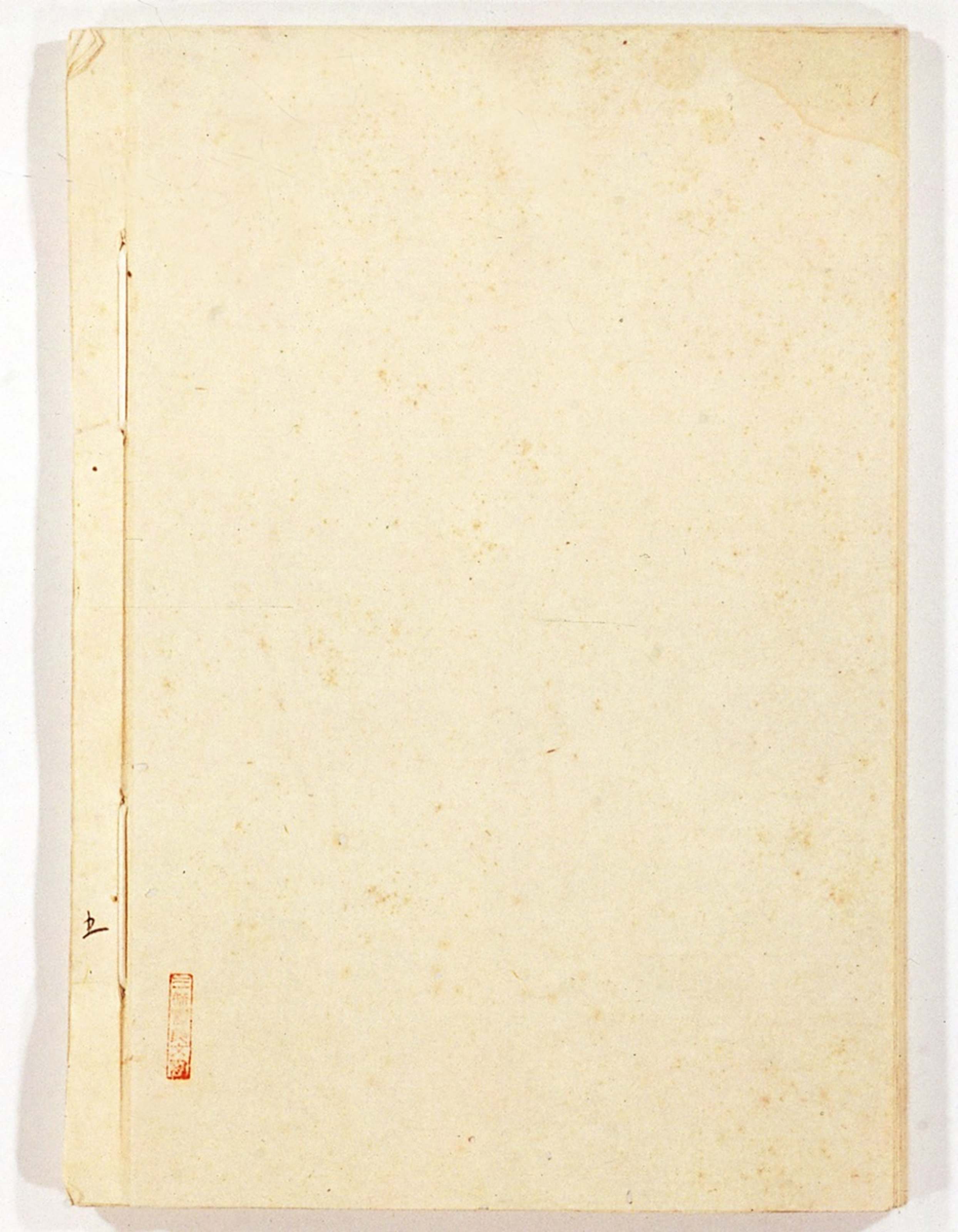
江戸海假回音然後全
望能便立約我両國永
久和睦也特此佈啓頓
候
日喜

欽差大臣水師提督彼理書横文

在本國火輪兵船蘇士貴罕那江戸海癸巳六月初日

敬啓者此度相来りし書
一封其門相と重き大切の儀を謹て
中述事事
為中国の事も連
及中に付能く以用心以手前の兵
し欲篤と以手前ても希は為
以国の重き以後人中諒に必ず国
家長久のケ源以伴議事事
有実元用然り出役の者十分に

唐付く来年三月頃を待てまた
の船を連れて江戸の海へ乗込右
の以返簡を受取て中に云後令く
板目なく鈎来を立て尚ほと我国
と永久の和睦を誓に申述る
百後日の能き以返事を取申る
なり

我役大臣新軍惣大将彼理書 横文

本國の大輪船名は横士貴
軍那といふ江戸海へ来て癸丑
六月初八日